

今日の福音書は、5つのパンと2匹の魚で、大勢の人を満腹させた、有名な奇跡物語です。男だけで5000人そこにいたということですが、女性や子どももいたわけですから、その倍の1万人はいたのかもしれませんが。この奇跡物語は、4つの福音書のどれにも載っています。この出来事を目の当たりにした人々には、伝えないではいけない、とても印象に残る出来事だったと想像されます。

そして、今日のヨハネによる福音書の特徴は、登場人物が、イエス様だけでなく、弟子の名前、フィリポ、アンデレというふたりの名前と、それぞれが発言したこともはっきりしています。また、他の福音書には出てこない、5つのパンと2匹の魚を持っていたのが少年だった、ということも記されています。他の福音書を見ると、弟子たちの誰が発言したのかわかりませんし、パンと魚が誰のものだったかも、書かれていないのです。

そしてもうひとつ、他の福音書では、余ったパンくずを集めたら、十二の籠にいっぱいになったことで終わっているのに対して、このヨハネによる福音書は、この奇跡を目撃した人々が「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である。」と言ったり、イエス様を王にするために連れて行こうとしたりします。

それで、私は思うのですが、ヨハネによる福音書のこの奇跡物語が、弟子たちの名前や発言、また目撃した人々の行動を書いているのは、読者への教育の意味もあるのではないかと。読んでいる私たちにも、フィリポやアンデレ、また少年のように、同じイエス様の弟子として、具体的にこの出来事に参加を促しているような印象を受けます。また、イエス様は拒否しているように描かれているけれど、集まった人々の口を通して、イエス様をどのように受け止めているのか、目撃した人々が信仰告白をしているようにも思うのです。

まずは弟子たちの発言に注目しましょう。

イエス様は、弟子のフィリポを試して、質問をされたことになっています。「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」という問いです。

これに対して、フィリポがまず答え、その後、質問されてもいないのに、アンデレが発言しています。それぞれ、何と知っているのでしょうか？

フィリポは「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう。」アンデレは「ここに大麦のパン五つと魚二匹持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」

どうですか。ふたりの発言をどう思いますか。まず言えることは、二人とも大勢の群衆を前にして、悲観的になっている、ということがわかります。フィリポは、「足りないでしょう」と言い、アンデレは、「何の役にも立たないでしょう」と答えています。どちらも、イエス様の質問が、「無理なことを言っておられる」という受け止め方のように思えます。

しかし、この二人の発言の数字の部分比べたら、ちょっと違いがあることに気づきます。

フィリポは「二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」。

アンデレは「大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。」でした。

どちらも食べ物数を答えているのですが、フィリポは、無いものを数え、アンデレは、あるものを数えている。ここに違いがあるのです。

よく言われることですが、コップに水が半分入っているのを見て、「もう、半分しかない」と受け止めるか、「まだ、半分もある」と受け止めるかの違いによって、その人の気持ちは、天と地との差がある、ということです。

フィリポは、頭のいい人だったのかもしれませんが。1万人の群衆を見て、1デナリオンが1万円として、200デナリオン。200万円のパンでも足りない、と言うのです。一人当たり、200円では、満腹しないでしょう、というわけです。大変計算のできる人ですね。しかし、その頭の良さが、できないことの言い訳になったら、イエス様に用いられる弟子としては、ちょっと問題があると思います。

一方、アンデレは、目の前の子どもが持っていた、五つのパンと二匹の魚があることに目が行ったのです。おそらく、子どもが、カバンから出して、イエス様にあげよう、と思って持ってきたのだらうと思います。すると、イエス様は、パンを取って感謝の祈りをささげて、分け与え、魚も同じようにしたことが書かれています。おそらく、私はこの時、イエス様は、弟子たちに向かって、「お前たちも持っているものを出せ。」と言われたか、そんな態度を示されたのではないか、と思うのです。

そうすると、弟子たちから始まって、そこに集まった人々が、それぞれ持っていた食べ物を、自分だけのものにしないで、分かち合って食べたら、みんな満腹したのだらう、と私は想像します。わずかなものであっても、今私たちが持っているものを見なおして、それをを用いることを考えるのが、弟子として大切なことだらうと思います。

ほんのわずかな人が始めた活動が、大きなうねりとなって、世の中を変えていった、という話はあちこちで聞くことではないでしょうか。皆さんはエコキャップ運動というのをご存知でしょうか。私たちが自動販売機で買うペットボトルに入った飲み物。飲み終わったら、回収ボックスに入れるのですが、時々、キャップは別に入れるような回収ボックスがあります。最近は回収ボックスも減ってきましたが。

実はペットボトルのキャップを集めるとワクチンに変わる、という話があります。

キャップは粉碎処理され、家電製品などを作るためのリサイクル素材になります。

そのため、キャップはキロ単位で売却することができ、その売却益を寄付するのです。

普段捨ててしまうキャップでも、約2キロ（約860個）でポリオワクチン1人分相当の20円になります。これによって、多くの子どものワクチンを施して、助ける活動があるのです。そんな活動は、今日の聖書の、小さな少年が差し出したわずかのパンと魚で大勢の人が満腹した話に通じるもののように私には思えるのです。

さて、最後に、この奇跡を目撃した人々が「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言ったこと。また、イエス様を王にしようと連れて行こうとしていることは、どう考えたらいいのでしょうか。

私がもう25年以上愛用している聖書は、「引照つき」と言って、聖書の重要な言葉が、他のどこに出てくるのか、その根拠や関連を教えてくれる場所が記されています。そして、「世に来られる預言者」というところに印がしてあって、申命記18:15、18と書かれています。申命記というのは、モーセが約束の地を目の前にして、自分はそこには入れないので、後継者のヨシュアやイスラエルの民に語った「モーセの最後の言葉」という風に、リビングバイブルでは解説しています。

そこにはこう書いてあります。『◆預言者を立てる約束 18:15 あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。18:16 このことはすべて、あなたがホレブで、集会の日に、「二度とわたしの神、主の声を聞き、この大いなる火を見て、死ぬことのないようにしてください」とあなたの神、主に求めたことによっている。18:17 主はそのときわたしに言われた。「彼らの言うことはもっともである。18:18 わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。彼はわたしが命じることをすべて彼らに告げるであろう。』

神様がモーセのような預言者を与えられる、という話です。イスラエルの民は、創世記からこの申命記までを毎年1回通して読んでいましたから、すぐにピンと来たのです。モーセは荒野で人々が食べるものに困ったとき、マナを降らせて食料として与えたことがありました。

また、イエス様より850年くらい前に、エリシャという預言者が、列王記下4章に、大麦パン20個で100人の人を養った話も人々は知っていたのです。モーセのように人々に食べ物を与え、偉大な予言者エリシャよりもすごい奇跡を起こす方が、このイエス様だ、と人々は信じたのでしょう。

でもイエス様は、人々に食べ物を与える王様ではなく、もっと別のことをするのが自分の使命であることを知っておられました。モーセが申命記8章で語った言葉を引用します。

『8:2 あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒れ野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知ろうとされた。8:3 主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。』

「人はパンだけで生きるものではない」ということを、最初はモーセが言ったのですね。

このヨハネによる福音書の著者は、「初めに言があった」という言い方でイエス様を紹介しました。イエス様こそが主の口から出る神の言葉だということを言いたいのでしょう。

大斎節の中にあって、改めて主の言葉によって生きることを考えたいと思います。